

会 議 録

会 議	平成27年度 第2回 尾花沢市庁舎建設検討委員会
会議日時	平成27年6月25日（木）午後6時30分～午後9時00分
会議場所	尾花沢市学習情報センター「悠美館」2階ハイビジョンホール
出欠委員 及びアドバイザー	出席委員 12名 欠席委員 1名 アドバイザー 1名
事務局	尾花沢市役所 財政課職員 4名

会 議 概 要

(1) 建物配置、階構成とゾーニングについて

- ① ゾーニング案の検討経過について
- ③ ゾーニング段階での主要な課題について

○事務局

ゾーニング案の検討経過、並びに主要な課題について資料により説明。また、ゾーニング案については、庁内検討部会での意見を踏まえ、長方形型の案に1本化した旨説明。

○委員

トイレの配置についてであるが、両案ともエントランス近くに配置されている。評価が分かれた理由を伺いたい。また、職場環境の評価であるが、職員目線だけでなく利用者の立場に立って整理していくべきではないかと思う。

○事務局

トイレの配置については基本計画で示すとおり、身障者やお子様連れの方にも配慮した多目的トイレを適正に配置したいと考えている。その点を考えた場合、どちらともエントランス近くにトイレは配置されているが、スペースの関係上、正方形型の案では一般的なトイレの配置となっている。一方、長方形型の案は多目的トイレを配置できており、後者を高く評価したところである。

職場環境面の評価については、委員ご指摘のとおり働く職員が目線から評価したものであるが、庁舎建設にあたっては、身の丈に合ったコンパクトな庁舎を念頭としている。将来的な職員数や業務形態の変化に柔軟に対応できることも重要なテーマであり、その点を踏まえ評価したところである。

○委員

長方形型の案について、保健センター側についても多目的トイレを配置してもらいたい。

○事務局

委員ご指摘のとおり、そうした配慮も必要になるかと思う。今後とも意見交換を重ねながらより良いものにしていきたいと思う。

○委員

議長室の中に議会図書室が配置されているが、どのように考えたのか。以前は、議会事務局に配置されていたかと思う。

○事務局

この点については、庁内検討部会の作業班の中で議長室の方が使いやすいのではないかとあったところである。ただし、現案はまだ決まった事項ではなく、今後とも議会と意見交換を重ねながら整理していきたい。

○委員

保健センター側には案内表示を付けるのか。また、保健センター側にも思いやり駐車場を配置した方がいいのではないか。

○事務局

そのように考えている。利用者の動線についても、庁舎と保健センターを分けて考えている。また、思いやり駐車場についてであるが、保健センター側については検診車両の関係で配置されていないが、利用者の利便性の観点から駐車場のあり方について改善していきたい。

○委員

市民団体等が利用できるスペースはどこになるのか。

○事務局

市民団体等が利用できる会議室については、3階に集約して配置している。1、2階の低層階に市民利用の多い窓口部門や産業部門を集約配置しているため3階を想定したところであるが、セキュリティ対策等については、今後整理していきたい。

② 新庁舎の機能構成と財源計画について

○事務局

新庁舎の機能構成と財源計画について資料により説明。

○委員

財源の見通しについてであるが、仮に事業費が増加した場合、地方債も比例して増えるのか。

○事務局

委員ご指摘のとおりである。

○委員長

財源の地方債の中で、防災対策に使える緊急防災・減債事業債については、現行法上、平成28年度までとのことであるが、それを過ぎれば財源的には使えないのか。

○事務局

現行法上は、平成29年3月までとなっている。現在、それ以降に着手する場合でも使えるよう、国に期限の延長を要望しているところである。

○委員

再生可能エネルギー分を対象とする補助金や地方債については財源に算入していないとのことであるが、そうした設備を導入しないということか。

○事務局

そうした設備を導入しないということではない。財源に算入していないというのは、現段階では再生可能エネルギーの設備方式等が決まっていないため、当該事業に充てられる補助金や地方債をまだ見込んでいないということである。方式が決まれば、そうした部分も算入して改めてお示ししていきたい。

(2) 構造形式と断面計画について

(3) 空調設備計画（熱源方式）について

○設計事務所

新庁舎の構造形式と断面計画、空調設備計画（熱源方式）について資料により説明。

○委員

構造形式についてであるが、鉄骨造と鉄筋コンクリート造の耐久性について伺いたい。

また、空調設備計画についてであるが、各熱源方式について、化石燃料を使用した設備と比較した場合、ランニングコストでどのくらい違うのか伺いたい。

○設計事務所

構造の耐久性についてはどちらもほぼ同じぐらいかと思う。また、再生可能エネルギーを活用した設備との比較であるが、木質ペレットの場合は、灯油よりも若干安いか同じぐらいかと思う。

○委員

地中熱についてであるが、イニシャルコストが高い反面、ランニングコストがほぼかからないということであるが、初期投資を回収するのにどの程度かかるのか。

○設計事務所

その辺の試算については今後になるが、イニシャルコストとランニングコストの全体で見た場合、木質ペレットよりも安くなる可能性もある。

○委員

木質チップは検討できないか。

○設計事務所

木質チップと木質ペレットを併用できる設備もあるが、木質チップの場合、熱効率の部分でペレットよりも劣る。

○委員

そうした設備の耐用年数はどの程度なのか。

○設計事務所

正確なことは言えないが、10年ぐらいかと思う。

○委員

制震ブレースについてであるが、これは露出した形なのか。また、各熱源方式での熱効率はどの程度なのか。

○設計事務所

制震ブレースについては被覆するため、外側から見えない形になる。また、熱効率についてであるが、各方式ともそれほど変わらないかと思う。

○委員

屋根の消雪についても各熱源を活用して融雪する形となるのか。

○設計事務所

屋根の消雪については、地下水熱を利用した無散水消雪を考えている。

○委員

確認であるが、屋根の消雪については散水方式ではなく、無散水なのか。

○設計事務所

そのように考えている。

(4) 総括

○アドバイザー

ゾーニング案の評価についてであるが、一見合理的に見えるが、評価項目ごとのウェイトが違っている。どういった基本理念で新庁舎を建てるのかといった部分に関わってくるので、その点を整理していただければと思う。

もう1点は、将来をどう考えるかである。10年、20年先を考えれば職員数や業務の形態も大きく変わってくる。職員だけで考えると、現在の業務形態を念頭に検討しがちであるが、大局的に見る目が必要である。今回プロポーザル方式で設計業者を選定したわけであるが、将来的な予見を持っているかどうかについても評価している。設計事務所にあつては、その点も十分踏まえて提案していただきたい。

○設計事務所

将来に希望を持てるような、大局的な視点で提案してまいりたい。

○委員

地元産材を有効に使えるよう今のうちから計画的に進めていっていただきたいがどうか。

○事務局

現在は、ゾーニング段階でありどのぐらいの木材の数量が必要になってくるのか、どの部分に使用するのか、当然ながら施工業者も決まっていない状況にある。その点をご了承いただければと思う。

以 上